



はし もと まさ あき
橋本 真 彰

生 年 月 1984年 8 月兵庫県生まれ
最終学歴 2007年大阪芸術大学
芸術学部建築学科卒業
業務経歴 2007年大成建設㈱入社
2007年関西支店建築部
●担当した主なプロジェクト
2007年 キリンガーデンシティ新築工事
2010年 東中学校改築工事
2011年 大津駅西地区再開発事業新築工事
2014年 学校法人龍谷大学瀬田学園農学部新棟建設工事
2015年 日東電工茨木事業所建設工事
2016年 京都経済センター整備事業工事

■青年技術者のことば

私は幼い頃に阪神淡路大震災で被災した経験がある。本来、人を守るべき建物が変貌する姿を目の当たりにし、半壊した自らの家に恐怖で入ることができなかったことを鮮明に覚えている。

そのことから建物とは何だろうと考えるようになり、父親と一緒に自宅を修繕し、同時に街が復興していく姿を目の当たりにし「人」と「建築」に強い関心を持つようになった。今では「建築」を学ぶことがライフワークである。その建築への考え方の根幹には常に「人を魅了し、人を守る存在」としての建築を意識している。技術者として品質を確保し、より良いデザインを実現すべく日々モノづくりに挑戦している。

私の生涯の目標は「新しいことを創造し人に感動を与える」である。建築は創意工夫の集合体であり、多くの人の思いをつめこみながら、多くの人の力で作り上げる。このプロセスの中で技術者として固定観念にとらわれることなく柔軟に様々なアイデアを複合的にまとめる役割を担い、新しいことを創造していきたいと考えている。これからも人に感動を与える技術者としてさらなる高みを目指し挑戦を続けたい。

■すいせん者

西本伸男
大成建設㈱ 関西支店
副支店長

伝統と革新を結び付ける ～地下工事と外装工事～



完成写真

●工事概要

京都経済センター建設工事の発注者は、地元の経済・産業団体などで構成される。「京都経済百年の計」を掲げて地元経済及び中小企業支援の拠点の創設、及び四条室町エリアのさらなる魅了向上と活性化を図ることを目的として計画された工事である。建設工事は、2016年 4 月に旧京都産業会館（SRC造）と市営駐車場（RC造）の解体工事から始まり、地下既存躯体の一部を残し新築建物を施工し2019年 1 月に竣工した。

設計プロポーザルで入手した物件であり、設計施工の特性を生かし計画初期段階から詳細の納まり検討や解体工事から建設工事まで一貫した工事計画を行ったプロジェクトである。内外装工事のチームリーダーとして全てのプロセスに参画し、作業所の牽引役としてプロジェクトに携わった。

●地下工事の課題と施策

・課題

市街地での大規模な既設建物の解体工事から地下工事の合理化や安全確保

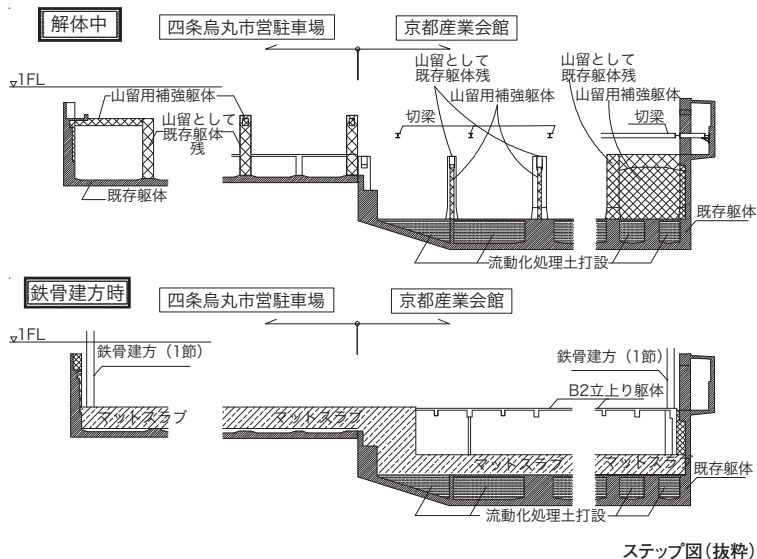
・施策

2つの異なる既設建物の山留工事フロー計画

既設建物は旧京都産業会館（SRC造）と市営駐車場（RC造）の異なる構造、異なる階数からなる。

本体工事はその2つの構造体を山留として使用する計画とした。

2つの異なる計画を実現させるためにフロー図にて作業を整理し、ステップ図を作成することで工程を可視化し手順の不具合防止や工程の整理に活用した。



●外装工事の課題と施策

・課題

意匠性の高い外装デザインを実現するための、意匠性、施工性、耐久性、コストのバランス

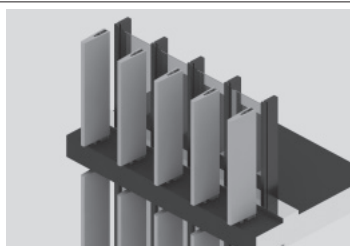
・施策

(1) 縦格子の特徴把握と技術上の検討項目のリスト化

原設計はスチール製のT型部材に杉の集成材を取り付ける納まりであった。構造的にはサッシとは縁が切れておりh3. 88mの部材が上部吊り支持、下部振れ止め支持という納まりであった。

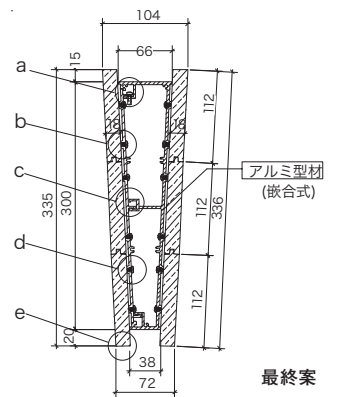
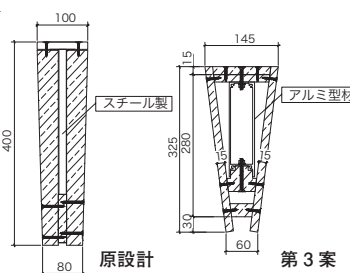
～検討項目～

1. 下地の種類
スチール製、アルミ製、木製
2. 台形の形状
下地部、木材部
3. 下地の二次部材の有無
ピースの数、製作手順
4. 木材の厚み
コスト、耐久性
5. ピス頭の処理
施工手順、意匠性
6. 木材の接着
全面接着、小口接着
7. 木材の耐久性
水対策、劣色対策
8. コストとのバランス
工場製作、現場施工



縦格子ベース

(2) 検討中でのステップアップ



(3) 多角的に隙のない納まりへ

- a. 片面アルミ型材と木を固定後嵌合した後に背面ビス止め
- b. 杉板の裏側からのビス止めにより意匠性向上
- c. アルミ型材と杉板材の間に隙間を取り、排水経路を確保
- d. ビス固定部に外部用の接着剤を使用し強度を向上
- e. 板厚を18mmとし、フローリング同様に木表にて取付
- f. サネ部のアルミ側（隠ぺい側）にクリアを設け施工性向上
- g. 天端はアルミ製蓋を取付、笠木として機能させ劣色防止
- h. 下端も蓋を設け、30mm程度浮かすことで劣色防止
- i. 万が一の水の侵入に備えて蓋には水抜きを設けた

●まとめ

プロジェクトを通して得た成果は

①品質の向上 ②工期の短縮

③無事故無災害の達成 である。

私の課題に対してのアプローチは固定観念にとらわれることなく、伝統的な工法や伝統的な意匠形状をいかにうまく組合せて、集大成である「施工」を安全かつ無事に迎えるかの検討を重ねることでした。検討するべき項目を事前に洗い出し、解決するという強い意志を持ち作業所を牽引したことで技術革新が実現できたと確信している。